

1 研究の意図とその理論的展開 (4)

郡山女大家政 関口富左

目的 (1) 社会の激変のなかで、生活の様態も亦激しく変化をきたす。この生活の変容も家庭生活における経営面よりとらえ、その史の実態も探り、そこに家庭経営変動の法則性も求める。(2) 家政学の一領域であらねばならない生活史の在り方を探ねる。(3) 家庭生活の総合性に対しての家政学の総合研究の研究方法を究明する。本論は(3)を目的とする。

方法 全体的には、理論と実態とにより主題の解明をはかる。家政学の総合性による総合研究の研究方法については『家庭経営の変動に関する生活史的研究』オー報に掲載の「研究の意図とその理論的展開」(1~2)を基として連けいの立論をはかる。

結果 オー報、2頁にその一部を記しておいた「総合の概念にもとづく家庭経営体における各要素と要素間の系統図」を始めとして、総合の意味、概念を定めその方法を考究した。こゝでは、「家庭経営の変動に関する生活史的研究」として扱ったので、家政学全体より見るときは、この研究方法はその一部分のみであろうが、この主題解明の内容は家庭生活の全領域でもあるので、この方法も一応の妥当性をもつものと思う。(1) 家庭生活(経営)に測定点を設け、生活様態の分析と総合を行う。(2) 生活要素の多層性の分類とその関係の連けい。(3) 研究主概念を中心とした研究者の専門分野の結集。(4) 主題における基盤性と主点との関係における測定点の結合と検討等四項目について総合研究の方法を理論的に設定した。